

『紙芝居作成と読み聞かせ』の簡易概要

紙芝居は、附属幼稚園の「避難訓練の実施計画」やこれまでの「行動観察の知見」を踏まえ、避難訓練内容に合致し発達の実情に応じた事後指導としての役目を果たすことを目指して作成されました。紙芝居の内容や読み聞かせだけでなく、導入や最後の振り返りの場面も併せて準備・計画されました。読み聞かせは、今年度の避難訓練（不審者1回目）の2日後に実践されました。紙芝居の読み聞かせの前には、担当クラスの幼児の観察等も実施しました。

作成された紙芝居

Aグループ：「どうすればいいかな」

知らない人に出会った時にどうするか、防犯用語「いかのおすし」に沿って学べる物語。場面ごとに3択クイズが提示され、幼児が参加しながら学べ、クイズの時もペープサートを用いて言葉だけでなく視覚情報も提示する工夫、紙芝居後にもペープサートによるクイズの内容を復習出来るようになっています。



Bグループ：「どうしたらいいかな？」

5歳児の「ちーちゃん」が、2人の知らない人と幼稚園で出会う場面やその時の対応を通して、不審者に対する正しい行動を学び成長していく物語。不審者のイメージを拡張する工夫、ストーリーを2つに分け繰り返しを意識するだけでなく、附属幼稚園の玄関をイメージできる絵の表現も工夫されています。



紙芝居の読み聞かせ場面の一部（双方とも幼児の考えを創発させる多様な手段を用いています）

Aグループ：「どうすればいいかな」

読み聞かせスタート場面



紙芝居中にクイズ形式で幼児に尋ねている場面

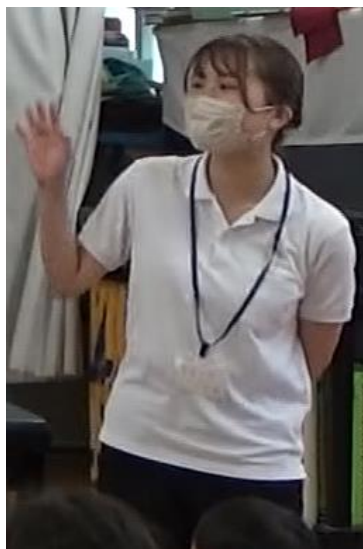


作成されたペープサートの一部

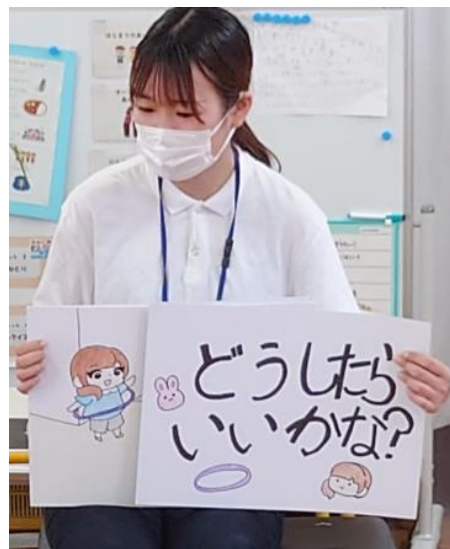


Bグループ：「どうしたらいいかな？」

導入場面



読み聞かせ場面



読み聞かせ後のふりかえり場面

